

二次発癌

抗癌剤の晩期障害として、治療関連白血病や固形癌の報告があります。

治療関連白血病は、シクロホスファミド・ドキゾルビシン・エピルビシンなどが原因として考えられております。症例対照研究では、こうした抗癌剤による治療で、治療関連白血病のリスクが有意に高まることが報告されており、G-CSF 併用によりリスクがさらに上昇すると言われております。しかし、EBCTCG のメタ分析では、抗癌剤投与で二次発癌による死亡率は上昇しないとしており、明確な根拠は得られておりません。